

県内初の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について

8月5日、中央保健所管内の医療機関から県内初となる重症熱性血小板減少症候群（以下 SFTS）患者の発生届がありました。患者は入院し、治療を受けています。

SFTS は、主にウイルスを保有したマダニに咬まれることにより感染するダニ媒介感染症の一つです。この感染症は、西日本を中心に発生が報告されておりましたが、近年では東日本でも報告されており、この患者については、行動歴から県内でマダニに咬まれて感染したと推定されます。

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まるため、肌の露出を避け、虫よけ剤を使用するなどして、マダニに咬まれないように注意してください。

【患者の概要】

1 年 代 等：70 歳代 男性

2 推定感染地域：茨城県内

3 症 状：発熱、筋肉痛、神経症状、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、出血傾向

4 経 過 等：

7/28（月） 発熱（38.5℃）が出現

7/29（火） 医療機関Aを受診

7/30（水） 症状改善せず、医療機関Bを受診

8/1（金） 意識障害が出現し、救急車で医療機関Bに搬送され、入院

8/5（火） 県衛生研究所による検査の結果、SFTS ウイルス遺伝子を検出

医療機関Bから中央保健所に発生届

プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

○ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

原 因：SFTS ウイルス

潜伏期間：6日～2週間

症 状：主な初期症状は、発熱、全身倦怠感、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）で、重症例では出血傾向や意識障害を伴い、死亡することがある。日本の SFTS の致死率は約 10～30%程度とされている。

治 療：対症療法が主だが、国内では、抗ウイルス薬（ファビピラビル）の使用が承認されている。

感染経路：主に SFTS ウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染する。

SFTS を発症している動物との接触により感染することもある。

感染予防：マダニに咬まれないために肌の露出を避け、忌避剤（虫よけ剤）を使用する。

感染した野生動物やペット、患者の体液との接触を避ける。

感染症法：四類感染症、全数把握疾患（診断を行った医師は保健所に届け出が必要）

－ 県からのお願い －

○ 県民の皆様へ

1 マダニに咬まれないように注意しましょう

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

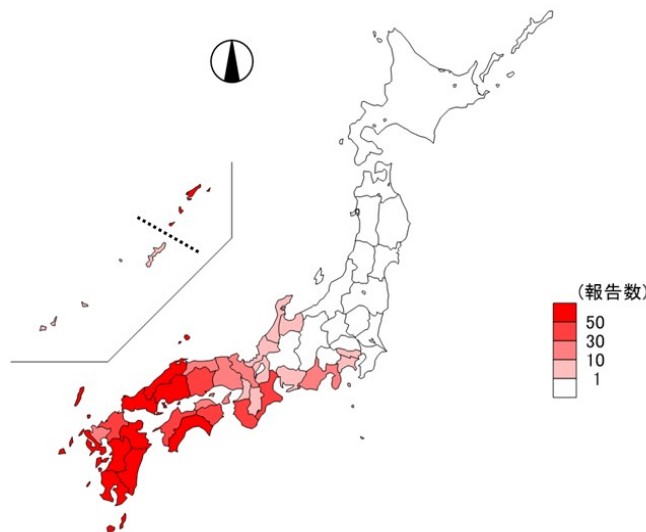
草むらや藪などに入る場合には、長袖・長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する）、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事です。服は、明るい色のもの（マダニを目視で確認しやすい）がおすすめです。

ディート（DEET）やイカリジン（ピカリジン）等を含む忌避剤（虫よけ剤）の併用も効果が期待されます。

2 マダニに咬まれた場合

マダニに咬まれていることに気が付いた場合、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は、速やかに医療機関で診察を受けてください。

<参考 1> SFTS届出症例の届出地域（n=1071、2025年4月30日現在）



出典 国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイト

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/article/sfts/020/20250523144135.html>

<参考 2> SFTS 患者発生状況

(単位：人)

年次	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年※
全国	78	110	118	134	122	120
茨城県	0	0	0	0	0	1

※全国は7月27日までの報告件数（速報値）

※本県は今回の事例を含む。